

第3回 稲沢市部活動地域移行検討委員会（議事録）

令和6年1月16日 13時30分より

稲沢市役所東庁舎 第10会議室

1 あいさつ（委員長・教育部長）

2 報告事項

(1) 部活動地域移行に関するアンケートの結果について

事務局：アンケート結果について説明。

委員：現在はどれだけの生徒が休日の部活動に参加していて、アンケートでは参加希望者が半数以下となっているのか。

事務局：現在は入部している生徒のほとんどが休日の活動にも参加している。

(2) 外部コーチの活用状況

事務局：外部コーチ活用状況調査の結果について説明。

3 協議事項

(1) 稲沢市部活動地域移行だよりNo.2の内容について

委員：6ページもあると読まれない。グラフを並列して、児童生徒、保護者、教員の結果の違いを比較できるようにすると良い。そのような構成にすれば、3ページぐらいに収まるのではないか。

事務局：内容の構成について検討していく。

委員：教員の指導者への希望が10%なのが残念。費用の面で個人負担となっているが、施設利用料や大会の参加費等にかなりお金がかかるのではないか。1,000円から3,000円が保護者負担の許容範囲としているが、保護者はどれだけお金がかかるかを把握できていない。そういったことを周知する必要がある。

委員長：費用負担については、今後の検討課題とする。

(2) 稲沢市部活動地域移行に向けて

事務局：①～③を目指していきたいと考えているがどうか。

① 令和8年度2学期より、学校による休日の部活動は原則実施しない。平日のみ実施する。

② 令和8年度2学期以降の休日の活動への参加は自由とし、学校で入部している種目とは異なるものも選択できる。

③ 休日の活動にかかる費用は、保護者負担を原則とする。

委員：令和8年度入学の1年生の入部はどうなるのか。

事務局：平日の部活動は継続するので、これまで通り入部することになる。

委員：校長会議で話し合ったことをもとに、令和8年度2学期からと時期を決めたことはよい。それまでに課題を解消していく必要がある。保護者負担だけでは難しい。市から金銭的なバックアップが必要。進めていくための組

織作りをしっかりと行い、コーディネーター役を置くことが必要。人材の確保が必要、希望者が10%となっている教員の協力者を増やしていく。企業、高校、大学など幅広く協力を求める必要がある。教員に対して早い段階で決定事項を伝え、連携を取れるようにしていく必要がある。

委員：新しい事業を行うのに市の経費なしの保護者負担のみで進めるのは無理である。方向性を早く決めて予算取りをしていかないと進めることはできない。教員が10%となっているが、別の調査では40%はやっても良いという結果が出ている。やれる人は潜在的にいると思われる。

委員：令和8年度2学期からということだとその時に3年生になる生徒は令和6年度に入学してくる。入部を決める前に決まったことを伝える必要があるのではないかと。

委員：伝えるためには大会の在り方がどうなるかまで決めて伝えないと3年生になってから人数が少ないから大会に出られないということは困るのではないかと。

事務局：大会の参加の仕方はこれまでに議論を重ねてきて大きな課題となっている。今後検討を進めていかないと伝えられる内容ではない。

委員：平日も地域移行をするのがゴールなのか。

事務局：スポーツ庁は最終的なゴールをそこにしているが、期限があるわけではない。稲沢市での現状では、平日の移行は到底難しく、まずは休日の移行を検討していく。

(3) その他

委員長：今、現在の課題は何か、考えるべきことはないか。

委員：令和8年2学期からということをついつ伝えるか、できるだけ早いほうがよい。大会の在り方、参加の仕方。

委員：現在の外部コーチは令和8年2学期からはどうするのか。外部コーチを残せば施設利用料などの費用はかからない。

委員：組織作りを行い、コーディネーターをたてて、そこに頼りながら進めるとよい。

委員：先生の希望が1割というのが不安材料である。

委員：保護者負担の費用が高ければ部活動ではなく、習い事をやらせると思う。市からの助成をしっかりとしてほしい。

委員：一宮市のように試行的な事業をしながら完全実施に向かうとよい。

委員：費用と指導者の確保が必要。

委員長：人、場所、時間、予算の確保が大切。事務局で来年度のスケジュールを。

4 その他

(1) 今後の予定

令和6年度第1回 5月or6月で予定

(2) その他

